



角力
仍付
送
之
奇
生

六五

~ 13
3335
3



門 13
3335
巻 3

茶 儀 堂

相撲道之奇生卷之五



目錄

一 綾川五郎治が事

一 綾川岩之助が事

大正十年八月廿九日
本大蔵出版部 贈

角付笠匠之奇生卷之五

清川五節法がま

ねも親もや人のよのよまが
ゆりゆりゆりゆりゆりゆり
たくりまがまのたくりまが
母も十以節ゆりゆりゆり
ぬりゆりゆりゆりゆりゆり

水うけくわむぞとまが
すけはくすつりけん
まらぬまの船と作らぬ
船はくくあはたりま
い申ふととまが
まらぬまの船と作らぬ
船はくくあはたりま
まらぬまの船と作らぬ
船はくくあはたりま

水うけくわむぞとまが
すけはくすつりけん
まらぬまの船と作らぬ
船はくくあはたりま
まらぬまの船と作らぬ
船はくくあはたりま
まらぬまの船と作らぬ
船はくくあはたりま
まらぬまの船と作らぬ
船はくくあはたりま

しげくひげ屋ヒゲヤとてとてあ
も町まちあし書かきく海うみく十江所
たなよらんじりりりりりり
しせななははいいむむええしして江えの
ううくくててああししささららととりりもも
あまげちちり次つぎがたなりぬぬ十江所
そは台せあありの神かみいいままららくくら
く一い浅あままととななししけ道みち中ちゆう

けがたくく袖そでくくははくくししり
て島しま屋やがたたるるべべののたた所ところああらら町まち
ななををななああととくくるるくくてていいりり
ししりりるる島しま屋やがが書かききたたくく海うみくくららぶぶ
ななああそそららににいいるるくくたたくくてて
ししりりるる島しま屋やののああららととてて
十江所じやうせうとといいちちりりりりりりりり
よよののちち道みちああららとといいるる海うみ草くさとといいふふ

うき世の茶屋の中を風流を
きくしめたる世に門前の
茶屋へ立ち入りて茶を
飲してゆくは
うき世の茶屋の
角の茶屋へ立ち入りて
茶を飲してゆくは
うき世の茶屋の
角の茶屋へ立ち入りて
茶を飲してゆくは

うき世の茶屋の中を風流を
きくしめたる世に門前の
茶屋へ立ち入りて茶を
飲してゆくは
うき世の茶屋の
角の茶屋へ立ち入りて
茶を飲してゆくは
うき世の茶屋の
角の茶屋へ立ち入りて
茶を飲してゆくは

角川一帯
河川は
多岐にわたる
日東の美濃川
あまの川
岩山
そこの

評判
本
少
河
や
もの
しが
が

らまゝに流るる水に
こぼれし水も
おぼろけの
角かしの
いそぎの
すゝぎの
にしんぎの
いそぎの

綾戸の
うらぎの
角かしの
いそぎの
すゝぎの
にしんぎの
いそぎの
いそぎの

下中らそくくたがひかゝるま
しやまざらんかたなりこの
際くそんかたきと十ほり
けりしやまざらんかたなり
磯川と竹崎しよりのこ
と金しよりのかたなり
物づゝの海峯のこたなり
とすはしよりのかたなり

之をくすんかたなり
磯川と竹崎しよりのこ
と金しよりのかたなり
物づゝの海峯のこたなり
とすはしよりのかたなり
磯川と竹崎しよりのこ
と金しよりのかたなり
物づゝの海峯のこたなり
とすはしよりのかたなり

よこしちゅうご
ご後中をいへるなとけりけあ
しやうくひんていしやうじんしよ
まけいごりしやうめいり
今しやうていしやうしやうし
ハ揚しやうていしやうし
そしやうていしやうし
五徳をいへるしやうし
けいしやうていしやうし

新刊のしやうし
朱徳のしやうし
中国をいへるしやうし
今しやうていしやうし
岩しやうていしやうし
谷しやうていしやうし
かりしやうていしやうし

けしきくまの風まじりも竹まじり
綾川よき水もせきも岩もよき
のこり人のこり
綾川よき水のこり
さく二まりの地離れ
威感しし
こり今も綾川岩もよき
すくもよき村の大地

けしきくまの風まじりも竹まじり
綾川よき水もせきも岩もよき
のこり人のこり
綾川よき水のこり
さく二まりの地離れ
威感しし
こり今も綾川岩もよき
すくもよき村の大地

新編 源氏物語之奇生卷之六

目録

一 十次所父の事記と源氏事

女綾川十次所と事記

事

一 源氏物語奇生事

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as ghostly cursive characters.



角力道之奇生卷之六

十次所^ぢの^ち妻^づと^ら婿^ら事^ら

又^り續^り川^に十次所^と事^ら

と^ら事^ら

初^めも^ち十次所^と續^り川^に婿^ら事^ら
去^りて^は一^と日^に道^をぬ^れ

たゞし〜が〜
と〜
と〜
の〜
の〜
の〜

たゞし〜
切〜
十右衛門
女むすめの〜
十右衛門

侍人まへがまはは使はつつと
ななかかりりととああままななははななりり
ににいいららししととままままりりととままりり
おおののちちととままりりととままりり
十十名名ののちちととままりりととままりり
怨怨のの歌歌のの形形見見てていいたたととままりり
いいののちちととままりりととままりり
我我ららははいいととままりりととままりり

いいののちちととままりりととままりり
毎毎ににいいととままりりととままりり
いいののちちととままりりととままりり
いいののちちととままりりととままりり
いいののちちととままりりととままりり

源氏山は石屋が事

そのちりしが如年の
多しと大童たり
一見塔寺しんれ
の寺ありは住石
せん波寺
便と
此の
石
寺
事

石塔
か
の
屋
十五
の
び

山々ありては波多塔
新築ありては波多塔
石塔ありては波多塔
波多塔ありては波多塔
波多塔ありては波多塔
波多塔ありては波多塔
波多塔ありては波多塔
波多塔ありては波多塔
波多塔ありては波多塔
波多塔ありては波多塔

け

傳白くは源氏と佐
右邊が知谷とは伝
なり

波多塔ありては波多塔
波多塔ありては波多塔
波多塔ありては波多塔
波多塔ありては波多塔
波多塔ありては波多塔
波多塔ありては波多塔
波多塔ありては波多塔
波多塔ありては波多塔
波多塔ありては波多塔
波多塔ありては波多塔

下

いづれもあまのこゝろのゆかりの
ゆかりのまじりたるはるの
かたしはあまのこゝろの
あまのこゝろのまじりたる
あまのこゝろのまじりたる
あまのこゝろのまじりたる
あまのこゝろのまじりたる
あまのこゝろのまじりたる
あまのこゝろのまじりたる
あまのこゝろのまじりたる
あまのこゝろのまじりたる

いづれもあまのこゝろのゆかりの
ゆかりのまじりたるはるの
かたしはあまのこゝろの
あまのこゝろのまじりたる
あまのこゝろのまじりたる
あまのこゝろのまじりたる
あまのこゝろのまじりたる
あまのこゝろのまじりたる
あまのこゝろのまじりたる
あまのこゝろのまじりたる
あまのこゝろのまじりたる

持来りし新なる石塔の
ちんくありしとて奇蹟を
大にうやむらうとありの
僧にうやむらうとありの
全てもうやむらうとあり
斗ごうとありとあり
信じてありとありとあり
ありとありとありとあり

そのこととありとありとあり
ありとありとありとあり
ありとありとありとあり
ありとありとありとあり
ありとありとありとあり
ありとありとありとあり
ありとありとありとあり
ありとありとありとあり

